雪氷化学分科会 2009 年「雪合宿」報告

雪氷化学分科会では，年間行事のひとつとして「雪合宿」を開催している．「雪合宿」は分科会総会の折に，「物理的な積雪調査法は確立されているが，化学分析のための調査方法は，それぞれがバラバラにやっているのではないか」という意見が出され，「是非，実際の雪を前にして検討会をやろう」という声があがった経緯から行われるようになった．これまでに，第一回：長野県乗鞍高原（信州大学乗鞍寮），第二回：北海道大学雨竜研究林（北大低温研），第三回：富山県立山室堂（富山大学観測地），第四回：山形県蔵王山頂付近（山形大学蔵王山寮），第五回：新潟県中里村（清津峡温泉），第六回：青森県八甲田山（酸ヶ湯温泉），第七回：北海道旭岳（北海道教育大学大雪山自然教育研究施設）と実施されてきた．今回は，長野県の志賀高原と信州大学山岳科学総合研究所志賀高原センターを合宿地に選び，「現場で感じる山岳積雪の化学」というテーマで行われた．

今回の合宿は，信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設の皆さんに大変お世話になりました．ありがとうございました．

日　時：2009 年 1 月 14 日〜16 日
場　所：長野県志賀高原，信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設周辺，
参加者数：28 人

1.　集合（1 日目）

集合の日は北日本の天気が荒れて飛行機のダイアが乱れ，北海道からの参加者のうちの 3 名が夜の 7 時過ぎに到着となった．その他の人は順調に到着した．ずいぶん早くから到着し，雪の斜面へ繰り出して予習に励む熱心な参加者もいた．

2.　講演会（1 日目夜の部）

最初に，恒例の自己紹介を行った．今回，初めて参加した方 10 名以上，第一回からの皆勤は 1 名だった．その後，信州大学の鈴木啓助さんから山岳積雪についての講義をして頂いた．前回は，質疑応答と議論が熱く繰り広げられ過ぎ予定の半分も終わらなかったので，今回改めて，雪に関する「いろはのい」から山岳積雪の特徴，そして積雪の化学について，「じっくり」講義をして頂いた．今回は，若い学生の参加が多かったこともあり，講義が終わった後も熱心な議論が，夜中まで続いたそうだ．

写真 1　夜の討論会の様子
（撮影：石井吉之（北海道大学））．

3.　積雪断面観測実習（2 日目）

初日から引き続き晴天に恵まれた．朝食後，宿泊施設のそばにある沼付近の露場で積雪断面観測講習会を行った．

「雪合宿」は，もう 8 回目を数えるのだが，分科会で自前の講師を準備できることが少なく，当日になって突然，参加者の中からお願いすることが多い．今回も急な要請を新潟大学の河島克久さんに引き受けて頂き，基礎から．じっくりわかりやすい講習をしていただいた．雪質やその形成過程を判断する根拠と視点の重要さが大変勉強になった．

昼食を挟み，午後からは国立極地研究所の倉元隆之さんに化学解析用試料の採取方法について講義をしていただき，いくつかのグループに分かれ

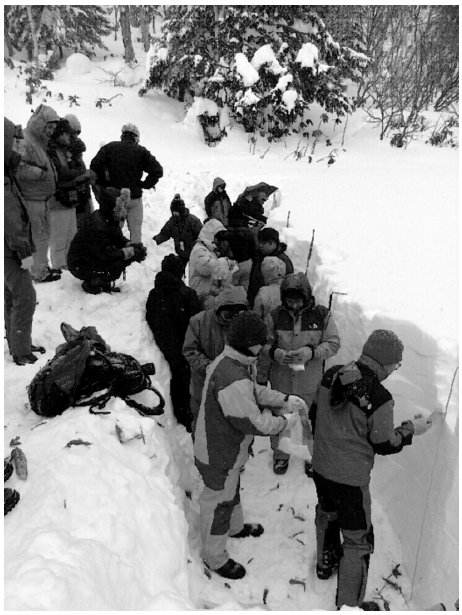

写真 2　積雪断面観測の様子
（撮影：河島克久（新潟大学））．

て化学解析用の試料採取を行った．試料の採取方法については知識と経験の共有がある程度進んできていると感じる．

4.　スライド & トークショー（2 日目夜の部）

夕食後，山本知聖さん（名古屋大学）にネパールの氷河観測について，永塚尚子さん（千葉大学）にウルムチでの氷河観測とその生活について，中澤文男さん（国立極地研究所）に南極でのトラバース観測についてスライドを交えながらお話しをしていただいた．その後は，昨晩に引き続き熱心な議論が夜遅くまで繰り広げられた．

写真 3　集合写真（撮影：佐藤和秀（長岡高専））．

5.　総評

今回の「雪合宿」は 8 回目の開催になった．雪氷化学の観測手法の共有化と積雪断面観測方法の取得という当初の目的は順調に達成されてきていると感じる．その一方，幹事としての役割に「慣れ」が出てきてしまい，締まりが足りない講習会になってしまった．折角，多くの方に参加していただいたのに，申し訳ないと反省している．

来年度からは新幹事に中澤文男さんを迎え，本年度の反省をふまえ，プログラム構成，観測地などを一新し，「新たな雪合宿」として再出発を図る．

充実した「雪合宿」に発展できるよう，学会会員の皆様からのご意見，ご提案など頂けたらと思います，また，雪氷化学分科会員だけでなく広く学会員の方の参加もお待ちしています．

これまでの「雪合宿」の様子や写真は雪氷化学分科会のホームページに掲載されています．
（http://www.seppyo.org/~chemistry）

（北海道大学低温科学研究所　的場澄人）

（2009 年 4 月 9 日受付）